

## 代表幹事退任の御挨拶

### 代表幹事を辞して

日本リハビリテーション医学会 近畿地方会 前代表幹事 藤原 誠  
兵庫医科大学リハビリテーション医学教室



平成9年1月25日の発足当初から平成16年7月まで7年半の間、多くの方のご支援のもとに代表幹事を務めさせて頂いた。この地方会は、如何なる時も私の脳裏から離れることのない存在であった。過ぎし日には、リハ医学の各地の志士との対話の中で、各種リハの集会にあって、「近畿のリハはどうか？」の問い掛けに、はっとしては息を呑むという状況があったように思う。しかし、来し方を振り返って見て、当地のリハ医療基盤は徐々に強められてきたことを頼もしく思っている。

幹事の皆様と企画、実行してきた事柄のうち、最も心血を注いだことは近畿地方のリハ昂揚である。この面から、今後、更に頼みとするところを認めたい。

学術面では、第1回教育講演会が、平成9年6月28日(土)に幹事鈴木恒彦氏を中心に意気に燃える方々のご協力、暴風雨の中、クレオ大阪南で開催され、現在までに23回を重ねてきた。第1回学術集会は平成10年1月24日(土)神戸国際会議場(国際会議室)において藤

原が担当、30余の演題で開催され、現在までに17回を重ねてきた。少しマンネリズム化する傾向もあり、新しい幹事会で新鮮みが出されれば幸いである。

今ひとつ、人材育成の問題がある。各地にリハ施設が開設される中、それぞれが自ら研鑽を積み重ねて多くのリハ専門医が輩出していること心強く思う。しかし、組織立った養成が難しい事実にも直面している。地方会の中で何とかしようと声を発しても空しい響きしか返って来ない。それを担うべき大学のリハは数・量とも寂しい状況である。兼任の大学も珍しくはないと言う状況だから、関わりあるものが糾合し、専念実践して、自らの母体にリハの王道を築かれるよう期待したい。

さらに、地域におけるリハ診療体制の問題がある。医療体制の変革、特化が進み、リハ関連施設が各地

に建設される中、リハ医療への社会的要請はこのところ高まるばかりで、社会はリハに大きな期待を持っている。期待を担って、リハ専門職(コメディカル)の皆さんの臨床活動と専門性陶冶に向かっているその姿には目を見張るものがある。医師の世界では、臓器医療面の専門分化・高度化への道に対して、包括的な見方がなおざりにされている気色がなきにしもあらずで、地域内でのリハ診療体制を支えるに足る、包括的チームアプローチ体制が十分に成熟していないことに不安を覚える。当地方会会員各位が、個々の施設にあっては、専門職との協働でリハ診療が進められるように、また、地域社会に向かっては、地域リハ実践のための社会体制の構築に、と研鑽を積み重ねることを願って止まない。



兵庫医科大学附属病院

